

重点的に取り組んだ活動・内容

項 目	実 践 状 況
1 実践1 【ハートいっぱいコーナー・たじりっこBOX】	全学級にハートいっぱいコーナーを設置し、学活や道徳の時間に、友達への感謝の気持ちや、友達への称賛のメッセージを書き、教室の背面に掲示した。 また、2学期には「たじりっこ（輝いている人、思いやりのある人、よい行いをした人）」をカードに書き、たじりっこBOXに入れることとした。生活委員会の児童がその内容についてお昼の放送で紹介し、学校全体で共有した。
	成果 日常生活の様々な場面で、友達から感謝されていることを知り、自分のよさを改めて知る機会になった。よい行いをしたとき、周りの誰かが見ているということを実感し、人のためになることを行う児童が増えた。そして、自分のよいところに改めて気づき、児童一人一人の自己肯定感も高まった。 また、周りの友達のよいところに目を向け、気づくことができる児童が増えた。
	課題 ハートいっぱいコーナーでは、学級ごとに、実施回数のばらつきがあったため、月1回実施日を決めるなどして、どの学級も偏りなく行えるようにしたい。
2 実践2 【生徒指導事例研修会】	5月に全職員で生徒指導事例研修会を行い、配慮が必要な児童や接し方（言葉遣い等）の共通理解を図った。その後も職員集会等の機会に定期的に、情報交換をしたり、配慮が必要な児童との関わり方について話し合ったりした。
	成果 研修会の資料では、配慮が必要な児童の名前だけでなく、顔写真も一緒に見て把握することで、学校ですれ違ったときなどに、全職員が声をかけることができる体制が整えられていた。 また、定期的に情報を交換するだけでなく、記録に残すことで何月には何があったかいつでも誰もが振り返ることができた。
	課題 全職員にどこまでを伝えるべきか、どこまで記録に残すべきか線引きが難しいところがあった。